

第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/24】

女子準々決勝

山口水球クラブ 15

4	—	2
3	—	2
5	—	2
3	—	1
PSO		

7 千葉県選抜

審判： 中 哲朗
太田 一誠

山口水球クラブ	28	SH数	19	千葉県選抜
	0	速攻数	2	
	11	ST・SB	5	
	11	SH・P誘発アシスト	9	
	42%	GK阻止率	35%	
5	EX反則数	14		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

前大会優勝の千葉と心境著しい山口という好カード。山口は春JOで泳ぎと積極的なシュートで上位進出を果たした。東西対決の図式となった形。

1P

千葉のパスミス逃さず、山口の軸となる福田と三田が攻め込んでペナルティやドライブSHを決めて山口が気持ちの面でも有利なスタートとなった。対する千葉は実力は折り紙済みだが、気持ちの面で気後れしたのか不用意とも思える退水プレーの連続で全くリズムに乗れず、山口4-2千葉で第1ピリオド終了。特に山口はパスミスなどなく、自チームの攻撃リズムがうまくかみ合った形。

2P

このピリオドも千葉のリズムは上がらず、山口・三田のプレーに追従できずにそこで次々にパーソナルファウルを誘発され、楽に加点されるという苦しい戦況が続いた。千葉が得意とする速攻をほとんど出せないくらいに山口に深く攻め込まれていた形だ。ベンチや選手にも「こんなはずでは…」という気持ちが手に取るように見えてきていて、積極性が消えかかっていた。唯一、サウスポー小林が個人技で得点し、前半を山口7-4千葉という展開で折り返した。

3P

開始直後のドライブ攻撃からあっさり得点できたことでリズム回復が期待され立場だが、このピリオドも山口が得点を重ねて余裕の展開となってきた。山口の軸となる福田と三田のコンビネーションからの連続得点を含み、このピリオドだけで5得点(2失点)と点差を広げて勝利に大きく近づいた。

4P

最終ピリオドも大きな変化はなく、千葉はディフェンスで後手を踏んでからの退水攻撃を受けるという悪循環が最後まで改善できずに、このピリオドも3失点(1得点)で山口15-7千葉という結果となった。全ピリオドで山口が千葉を圧倒したことを考えると、実力の違いを見せつけたことになった。同世代チームでは山口の福田・三田コンビを抑え込むのはかなり困難と思え、千葉戦に圧勝した山口が優勝候補筆頭に躍り出てきた印象を強くもたらした。

【プレー分析から】

両チームともに泳ぎを基本とするスタイルであるが、そうした状況を警戒したためか、双方の速攻数が合計でも2本。それも序盤に千葉が2本出ただけで、山口はこの試合で速攻を封印した結果となった。千葉相手に泳ぎ合い展開は理にならないと判断し、中盤からのテンポアップからの仕掛けで退水を誘発し、数的有利状況下でシュート力のある福田らを活用する作戦だったのかもしれない。

その他では、ボール接点での攻防で山口が千葉を大きく上回っており、そうしたターンオーバー起点を積極的に退水誘発への誘因となった形だ。

千葉は関東地区では対抗馬なしで勝ち進んできたが、力強い水球を展開するチームへはかなり不十分であることを今回示してしまった感がある。